

サーチライト With Pastor Jon 創世記 4 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

創世記 4 章。3 章では、アダムとエバがエデンの園を追放された場面と神の憐みを見ましたね。罪深い状態に墮落した二人がいのちの木の実を食べたなら、老いていく体で永遠に生きることになってしまいます。それは大変な悲劇になるため、神は憐みによって彼らをエデンの園から追放し、永遠に生きることがないようにしました。神が用意された良い計画は、人間の死です。すなわち、魂が肉体から離れるということ。それで人の霊は天に上げられ、天国で主と共に過ごします。そして時が来れば死者たちは復活し、復活した体で戻って来ます。傷も弱さもない永遠に備えましょう。そこで神と交わる、それが天国で、新しく素晴らしい状態で永遠に生きるのです。それを知っていても知らなくても、このことは誰もが皆望んでいることです。私たちは皆、復活した新しい体で主と共に天国で永遠に過ごす日を切に待ち望んでいます。

さて、人がエデンの園から追放されるという一連の出来事が起こりましたが、二人には希望がありました。以前創世記 3:15 で見た原福音。最初に語られた福音。神はアダムとエバに言いました。「あなたたちが犯した罪の影響は当然ある。罪を犯したのは間違いないことだから、その影響を当然受ける。だが、女の子孫が生まれ、彼がサタンの頭を打ち砕き叩き潰し、その結果救いがもたらされる。」以前もお話したように、アダムとエバはメシア預言について理解していた、と私は思います。そうして確かにその通り、約束の救世主が、敵と戦い救いをもたらすために女から産まれました。それが、これから学ぶ 4 章の内容です。

人は、その妻エバを知った。(創世記 4:1)

これは“紹介された”というのではなく、アダムがエバを性的に深く知ったということ。

それで、**彼女はみごもってカインを産み、「私は、主によってひとりの男子を得た」と言った。(創世記 4:1)**

『カイン』の意味は“得た”“獲得した” スコフィールド師が上手く表現していますが、ここはヘブル語では「私は人を産んだ！ しかも主を!!」 エバは、この最初の子、長子が『女の子孫』だと思ったのです。言い換えれば、「この子

は主だ！」「この子がそうだ！」

「この子が勝利をもたらすメシア！」確かに主は創世記 3:15 で約束しましたが。

それでエバはこの赤ちゃんにカインと名づけるほど、この子が救いをもたらす約束の子、つまり主だと信じました。

「私は人を産んだ！ しかも主を!!」彼女が赤ちゃんにつけた名前はカイン、“得た。獲得した。”

彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。(創世記 4:2)

『アベル』の意味は“空虚”“虚しさ” 今風に言えば“あ〜あ” なぜでしょう？

「私は人を産んだ！ しかも主を!!」 それからしばらく子育てをして、2 番目の子が産まれると「あ〜あ」「この子は違う…」 カインは主ではなくて、アベルも違う。

ここにいる全ての親たちが知っていることですが、子供は既に罪の性質を持って生まれて来ます。2 番目の子が産まれた時、エバにははっきりと分かったのです。「私が思っていたのと全然違うじゃない。あ〜あ…」 アベル、虚しさ。がっかり。

私は、子育て中の親で「子どもは善人の性質を持って生まれて来る」と言う人に、今まで一度も会ったことがありません。多くの心理学者や理論家は性善説を唱えますが、子育て中の親たちは「いやいや、それはウソだ!」「それは違う。」

「うちにも子供たちがいるから教えてあげるよ。彼らに性善説なんて通用しないって!」「子供は罪人として生まれて来るんだ。」「我が子に盗みを教えた覚えはない。兄弟をいじめることも、蹴っ飛ばしたり、噛みついたり、ケンカをしかけるようなことも。」「誰もそんなこと、教えはしなかったわ。」「あれは生まれながらのものよ。」 その通りです。私たちはみな、罪を持って生まれて来ます。唯一の例外は『女の子孫から産まれて来る者』、通常の出胎ではなく、その本質に罪のない方、勿論それはイエス・キリスト。

ということで、「あ〜あ…この子の名はアベル。」 子供が与えられたけど、メシアが自分から産まれるという期待がその通りにならなかったことに、エバはとても落胆しました。

アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。(創世記 4:2)

アベルは羊飼い、カインは農夫。

ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来たが、(創世記 4:3) アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のもを持って来た。(創世記 4:4)

さあここで、土を耕す農夫であるカインは畑の収穫物を持って来ました。

間違いなく彼は満足げな顔をしていたでしょう。「私の作物を見てくれ。」「私が土を耕し、種を蒔き、水をやって作った作物。その中の最高のものを主に献げるんだ!」

恐らく目を輝かせ、満面の笑みで、「主よ、良くできているでしょう!!」

カインが作り、ここで神に献げているのは“プライド”。今もいますよね、そういう人。

「私はこんな事をした。」「私は色んなものを手に入れた。」「私はこんなことまで知っている。」 私、私、私 (I、I、I) プライド“PRIDE”の真ん中の文字は“ I ”、

罪“SIN”の真ん中は“ I ” 分かりますか？ この時のカインは、間違いなくとても自慢げで、とてもハッピーで「私はすごい!」

一方、カインがプライドに満ちていた時、アベルは泣いていました。「泣いていたとは、どういうこと?」 アベルは羊を取り、のどをかき切って血を流さなければならなかった。そうして主に献げたのです。それは簡単なことではありません。私には分かります。

私の 10 歳の息子ベニー (*1997 年) は、モルモット“ランピー”を長い間、自分の部屋で飼っていて、とてもかわいがって大切にしていました。だけど、ランピーに何かが起こっているようで、数日前から弱ってきていて。ところで

モルモットって何かしますか？ と言うのは、モルモットはハムスターのように輪の中をひたすら走ることもしないで、ただじっとしているだけで、来る日も来る日も毎日、外に連れて行ってもじっとして、芝をちょっとずつ食べる以外何もしないのです。それでも彼らは長生きで、ランピーも随分長く一緒にいました。ある日私が部屋に行くと、ベニーが「パパ、ランピーが元気ないんだ。」実際、その通りでした。目はむくみ腫れ上がって閉じたままで、後ろ脚はピクリとも動かない。毎日様子を見ていたのですが、悲しいことにランピーは全く動かず、後ろ脚は投げ出したままでもとも悪い状態でした。それで、数日間回復を待ったのですが無理だったので、ベニーが学校に行っている間にランピーを裏庭に連れて行き、シャベルで天に送ったのです。それが…それが、すごく大変で。分かります!??

特に最初の一発を外してしまって、少し傷つけてしまい…。冗談です。ごめんなさい。

本当は、事を行いながら、少し目が潤んできました。そこへベニーが帰って来て部屋に行き、「パパ、ランピーは？」だから私は「ベニー、あのね、ランピーは行ってしまったよ。もうここにはいないんだ。彼は、彼は…ここにはいない。死んだんだよ。」「死んじゃったの?」「そう。死んでしまったんだ。」ベニーはひどく悲しんで泣いて、私は息子をハグしたりして。でも、そうしているうちに、彼は自分の部屋に行ってゲームで遊び始めました。そこまでは順調でした。クリスティ（娘）の友達に来るまでは…。

クリスティは数時間早く帰って来ていて、私が何をしたのか知っていた。そして、友達に「聞いて！ パパがランピーを叩き殺したの！」と話したのです。それでその子がひょっこり家に来て、「ヘイ！ジョン先生!! 今日、ランピーを殺したんだってね!？」出て来たベニーの、彼の目は「ナニっ!？」「なんだって!?!?!？」

ああ…痛ましい…易しいことじゃない。私はベニーに話しました。「そうだよ、ベニー。ランピーは死んだんだ。パパは、ランピーが前に進むためにお手伝いをしなきゃいけなかったんだ。」

動物を殺して献げることと、畑から野菜や果物を採って来て献げるとは全く違うのです。動物の死に直面したことのある人なら分かるでしょう。どんな動物でも。それは易しいことじゃない。喜ばしいことでも楽しいことでもありません。

これであなたも理解できますね。ここでアベルは、間違いなく初めて、自分の羊の中から一匹を献げているのです。カインが自慢げに自分の農作物を献げている時に。

ヘブル書に詳しく書かれています。

信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。(ヘブル 11:4)

アベルは信仰によってそれを行いました。

次にローマ書。

信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。(ローマ 10:17)

これは、このストーリーを理解するための鍵となります。神はカインとアベルに、神に受け入れられるささげ物について話しをしました。アベルは神のことばを聞き、信仰によって従うことを選び、その通りにしたので、彼のささげ物は受け入れられました。

対してカインは恐らくこう言ったのでしょう。「動物を殺して血を流すよりも良い方法がある。私の農作物を持って来よう。私が働いて得た物を献げよう。」カインは自分の得意なことで神を感動させようとしたのです。

ストーリーは続いて4節の最後の文。

主はアベルとそのささげ物とに目を留められた。(創世記 4:4)

だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。(創世記 4:5)

ここで覚えておいて欲しいのは、神は「アベル、上出来だ。良くやった!」「カイン、何だ、それ。ダメ!」とは言っ

ていないこと。そうではなく、アベルは信仰によってすべきことを行い、カインは他の方法を思いつき、心を込めてではなく、また天の父が命じた通りでもなく、自分自身が良しとしたやり方で事を行ったということです。いいですか？

神は彼らのささげ物を見て言いました。「アベル、良くやった。」「カイン、あなたの労力は受け入れられない。」

血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。(ヘブル 9:22)

「だけど、そんなひどいこと！」と、カインは思ったのでしょうか。「血を注ぎ出すなんて野蛮だ！」と、あなたも言うでしょ？「野菜や果物のナニが悪い!? 血を流すなんて恐ろしいことは嫌だ！」そこがポイントです。罪は非常に恐ろしく、罪は死を招く。罪は不幸をもたらす、罪は人を悲しませ、むしばむ。これが全てのポイントです。

神は“残虐な神”になろうとしている訳ではなく、ここでとても大切なことを伝えようとしているのです。「罪は本当に恐ろしい。それは悲しみと病気をもたらす。血が流され、命が奪われる。これが罪の結果だ。」「罪」。

ここでアベルは子羊を献げました。神の計画によれば子羊は人のため。後の出エジプト記で、過越しの日には家族のための子羊となり、家族ごとに一匹の子羊が屠られ、その血が家々の2本の門柱とかもいに塗られました。その形は十字架。

創世記では一人の人のため、出エジプト記では家族のため、レビ記では民族のため、ヨム・キプール(大贖罪日)の日に、全部族のために子羊が屠られました。そして最後は「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29)

一人の人から家族へ、そして民族へ。このことが示しているのはあなたと私、全ての人の罪を取り除く方。ハレルヤ！

さて、アベルの子羊のささげ物は受け入れられますが、次に起こったことに注目して下さい。驚きです。5節最後の文。

それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。(創世記 4:5)

カインは激怒し、苦々しい気持ちになり、顔を伏せました。これは、聖書の中で最初に記載された“鬱”です。

ずいぶん前にお話しましたが、聖書を理解するには原則があります。その一つは、どんな内容であれ、聖書の中で最初に記述された時は、大抵の場合、そのことについて全部理解できるように鍵が与えられている。神学や教義、課題を学ぶ時はいつでも、最初にそれについて記述されている箇所を見つけるなら、ほとんどの場合、必ずではなくても大抵、そこに鍵となる基本的なヒント、暗示があります。

ここは、鬱について初めて記された箇所、**カインはひどく怒り、顔を伏せた。(創世記 4:5)** これは、顔つきが変わるということ。笑顔から無表情に。にっこりからむっつりに。**顔を伏せた。**

そこで、主は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。」(創世記 4:6)

「カイン、なぜ怒っているんだ?」「どうして笑顔が不機嫌な顔に変わってしまったんだ? にっこりからむっつりに。」

「なぜだ?」「どうしてそんな顔をしているんだ?」

「カイン、何かあったのか?」

「あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。」(創世記 4:7)

言い換えれば、「もし、あなたが正しく行ったのであれば、あなたは高められただろう。」ウォ! 「カイン、なぜ怒っている? なぜ落ち込んでいる? 正しく行うことを選んだのなら、あなたの気分は晴れたんだよ。」

「ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、(創世記 4:7)

「息子よ、それはあなた次第だ。あなたが選ぶことだ。正しく行うことを選べば、前のように顔を上げることができる。」

「ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」(創世記 4:7)

「正しく行うことを選ぶなら、あなたは期待された優秀さやリーダーシップや冷静さを持ち、いつもそうありたいと

願っていた地位に就く。正しく行わないことを選ぶなら、罪が戸口で待ち伏せする。それは、ライオンが草むらの中で身を低くして獲物を狙っている姿。獲物を狙うライオン。そのように、罪があなたを狙うのだ。」「カイン、あなた次第だ。」

これは、私たちが生きる今の社会、あちこちで耳にする話題ですね。

鬱や表情変化の欠如について色々な議論がありますが、私は聖書を教える者として、皆さんにお伝えしたい。多くの、ほとんどの症例に於いて、全てのことを理解する上で鍵となるのはシンプルなこと。顔を伏せるのは、大抵、誰かに怒りを抱いている時の態度です。カインがそうであったように。誰かに苦い思いを持っている。カインのように。

これは昔からの単純で明白な罪に繋がっているのです。

私は敢えて困難な位置に立つことを選んできました。私は社会が言っていることに對抗しているがために、荒野で叫んでいる預言者のように感じる度が度々あります。

それでも、私は聖書に答えがあることを確信しているので伝え続けます。

今日、非常に多くの人々が、鬱のために医療の助けを求めています。しかし実際は、全てのケース、全ての状況ではないにしろ、多くの場合、それは単純で明白な罪による霊的な問題なのです。

つづく

そして彼に、「ペテロよ、立ち上がり、屠って食べなさい」という声が聞こえた。

しかし、ペテロは言った。「主よ、そんなことはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。」

すると、もう一度、声が聞こえた。「神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない。」

(使徒の働き 10:13 - 15 新改訳 2017)